平成２４年１月８日
ＮＰＯ法人四季の森里山研究会
武本弘次　中島進市　宮下修一

「冬芽の不思議」

秋に美しく色づいた落葉樹はほとんどの葉を落とし、裸のさびしい姿になっています。
それでも、その枝の先には必ず小さな冬芽がついています。
芽生えてしまうと移動ができない樹木（植物）が、冬の厳しい寒さ、乾燥に耐えながら
その一つ一つの冬芽は、いろいろな冬の間の障害に対する備えをして春を待っています。
今日は、そんな冬芽の不思議な世界を覗いてみましょう。

＊　冬芽の種類

鱗芽（芽鱗のある冬芽）

裸芽（むき出しのままの冬芽）

隠芽（葉痕や樹皮の中に隠れている冬芽）

・　芽鱗には

１．　魚の鱗のようなもの　・・・　ミズキ・エゴノキ　他
２．　毛皮のコートのようなもの　・・・　コブシ・モクレン　他
３．　硬い皮のジャンバーのようなもの　・・・　ホオノキ・ネコヤナギ　他

・　裸芽には　・・・　ムラサキシキブ・エゴノキ　他

・　隠芽には　・・・　ネムノキ・ニセアカシヤ　他

＊　冬芽と共に葉痕も観察してみましょう。

・　葉痕とは・・・葉の落ちた痕でそれぞれ特徴があります。維管束痕があり、動物の顔に似たようなものが多く、よく観察してみると新鮮な発見があります。

・　維管束痕とは・・葉痕に残る導管（植物が根から水を吸い上げ、葉に送っていた管）と師管（葉で光合成を行い、できた栄養分を樹に送っていた管）の痕のことです。

さあ、寒い冬も暖かい家の中に籠らず、
ルーペを持って四季の森公園に出かけてみましょう！

（文責　金森　厳）